

ASEAN地域フォーラム（ASEAN Regional Forum: ARF）概要

平成30年8月
外務省安全保障政策課

1. 目的・特色

- (1) 政治・安全保障問題に関する対話と協力を通じ、アジア太平洋地域の安全保障環境を向上させることを目的としたフォーラムで、1994年から開催。
- (2) ASEANの中心性を重視する一連のフォーラム（EAS, ADMMプラス）の中で最も歴史が長く（閣僚会合：25回）、加盟メンバーも多い（北朝鮮も参加）。
- (3) ①信頼醸成の促進、②予防外交の進展、③紛争へのアプローチの充実、という3段階のアプローチを設定して漸進的な進展を目指している。

2. 参加国

- 25か国+1地域+E.U（開催年のASEAN議長国がARFでも議長を務める）
- ・ASEAN10か国（ブルネイ、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、シンガポール、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア）
 - ・非ASEAN15か国+1地域（日本、米国、カナダ、豪州、ニュージーランド、パプアニューギニア、韓国、北朝鮮、モンゴル、中国、ロシア、インド、パキスタン、東ティモール、バングラデシュ、スリランカ）
 - ・E.U（代表参加：E.U外務・安保政策上級代表、欧州対外活動庁）

3. 構成

- (1) 毎年夏の閣僚会合（外相）を中心とする一連の会議の連続体として構成。
 - ・閣僚会合（年1回）、SOM（局長級：年1回）、ISG（課長級：年1回）
 - ・分野別会合期間会合（ISM）・セミナーも随時開催（災害救援、海洋安全保障等）
- (2) 別トラックの会議を継続的に開催し、ARF本体会合との連携を実施。
 - ・ARF専門家／著名人（EEP: Experts/Eminent Persons）会合（トラック1.5）
 - ・アジア太平洋安全保障協力会議（CSCAP）（トラック2）

4. 実績

- (1) これまでの活動の積み重ねを通じ、参加国間の信頼醸成に大きく貢献。
 - ・参加国自身を当事者とする問題（北朝鮮、南シナ海等）での率直な意見交換
 - ・具体的な信頼醸成措置（年次安保概観の発行、各種会合の開催等）の実施
- (2) 「トークショップ」を越えた、具体的協力を行う枠組みに向けた整備を推進。
例：ARF災害救援実動演習（DIREX）の実施（2009年、2011年、2013年、2015年）
ARFビジョン・ステートメント（2009）→2020年のARFの目指すべき姿を提示
予防外交ワークプラン（2011）→具体的取組（WS開催、訓練プログラム等）を提示
- (3) 各種会合の主催などを通じ、我が国も積極的に参加・貢献。
例：軍縮・不拡散ISM：インドネシア、韓国と共に共同議長（2017～2020）、サイバーセキュリティISM：マレーシア、シンガポールと共に共同議長（2017～2020）。

5. 本年の閣僚会合

2018年8月に、議長国であるシンガポールで開催。

（了）